

利用アーティストの作品発表 「START Box EXHIBITION」を開催

東京都及び(公財)東京都歴史文化財団では、若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援するため、都営住宅等の空き店舗を活用した創作スペース「START Box」を運営しています。

この度、活動するアーティストの作品発表の機会として、有楽町アートアーバニズムYAUの協力を得て、「START Box EXHIBITION」を開催します。ぜひご来場ください。

■ 概要

日時	令和6年3月22日(金曜)～26日(火曜) 12時00分～18時00分 ※22日、26日は20時00分まで
会場	国際ビル1階 YAU CENTER(千代田区丸の内3-1-1) ※下記「アクセス」を参照
内容	都が共催する「有楽町アートアーバニズム YAU」の協力の下、START Boxで活動するアーティストが制作した作品等を展示。 参加アーティストによるトークイベントも実施予定
出展作家	飯沼英樹、興梠優護、滝本優美、西村祐馬、松田匡代、 松本千明、南靖子、ヨフ、Yoko Ichikawa
参加方法	入場無料、予約不要
主催	東京都、(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
協力	有楽町アートアーバニズム YAU



【アクセス】



- ・JR「有楽町駅」国際フォーラム口より徒歩2分
- ・日比谷線、千代田線「日比谷駅」(A6直結)
- ・都営地下鉄三田線「日比谷駅」直結 (B3・B4出口)

START Box×YAU 関連イベント

3月22日(金曜)及び26日(火曜)の18時から20時まで、トークイベントを実施します。参加アーティストや展示作品の紹介等を行いますので、ぜひご参加ください(参加無料、予約不要)

■ 「START Box」について

アトリエ等を確保することが難しい若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援する、東京都及び(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の事業です。令和5年4月には、渋谷区笹塚・幡ヶ谷にある都営住宅の空き店舗を活用した創作スペース「START Box ササハタハツ」、令和5年11月には、お台場の東京都住宅供給公社の空き店舗を活用した創作スペース「START Box お台場」をオープンしました。

STARTBox



START Box 公式ウェブサイト
<https://startbox.jp/>

■ 「YAU」について

有楽町アートアーバニズム(YAU)は、街がアートとともにイノベティブな原動力を生み出す、実証パイロットプログラムとして、令和4年2月にスタート。令和4年10月より一部事業を東京都と共催し、アートの制作過程を街なかで広く公開することで、多様な出会いを誘発するなど、大丸有におけるアートとビジネスをつなぐための取組を行っています。令和6年3月より国際ビル1Fの路面区画にオルタナティブスペース「YAU CENTER」をオープン。今後も街との接点を多く持つことで「アーティストがいるまち」の実現を共創していく。

YURAKUCHO ART URBANISM YAU



YAU 公式ウェブサイト
<https://arturbanism.jp/>

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。
戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略

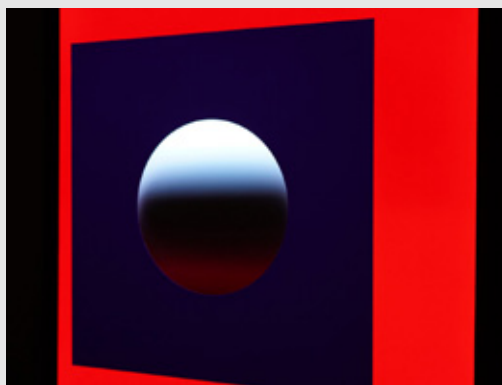
お問合せ先

生活文化スポーツ局文化振興部文化事業課 電話 03-5000-7234

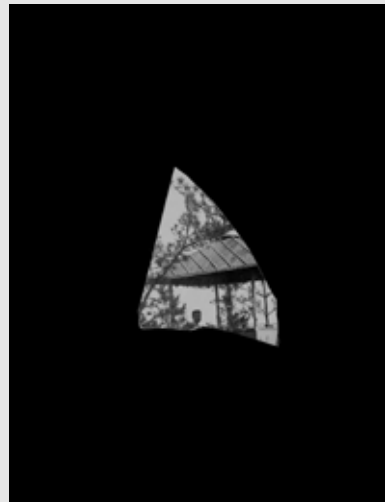
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部広報課 電話 03-6256-8432



Chiaki Matsumoto



YOF



Masayo Matsuda

START Box EXHIBITION

2024.3.22^{FRI} - 26^{TUE}

12:00~18:00 (22日、26日は20:00まで) 予約不要、入場無料

YAU CENTER

千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1F



Hideki Inuma



Yoko Ichikawa

若手アーティストに、創作場所を提供し、継続的な活動を支援する取り組みとして2023年に立ち上がった「START Box」。(主催: 東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)
アトリエで活動した作家の中から9名の作品を展示します。



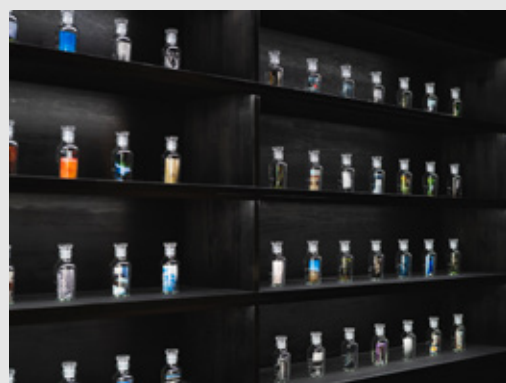
Yasuko Minami



Yugo Kohrogi



Yumi Takimoto



Yuma Nishimura

START Box EXHIBITION

参加作家

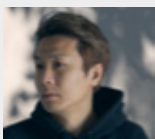
飯沼英樹 / Hideki linuma

1975年長野県生まれ。玉川大学、愛知県立芸術大学大学院修了後、フランス政府奨学金にてナント国立美術大学に入学。5年の留学期間中にナントの他にミラノ、コペンハーゲン、カールスルーエにて交換留学生として彫刻、現代美術を学ぶ。現在はヨーロッパ、日本、アジア各地での活動を展開している。ドイツ、オランダ、イタリア、台湾に取扱いギャラリーがある。作品は松本市美術館、タグチアートコレクション、エルンスト・バルラハ美術館、ケラバ美術館、ヴィギリウス・マウンテンリゾートなどに収蔵されている。



興侶優護 / Yugo Kohroggi

1982年熊本県生まれ。2009年東京藝術大学大学院美術研究科修了。人体のモチーフを軸に、光、色彩、視覚といった曖昧で移ろいゆくものに着目し、絵画性の拡がりを探る試みを行う。近年は、国内外に中長期的に滞在制作し、根源性と現代性という観点からリサーチと制作、展示を行っている。主な展覧会に2023年「VOCA 2023」上野の森美術館、東京 2022年「KYOTO STEAM 2022」京セラ美術館 東山キューブ、京都 2018年「高橋コレクション 顔と抽象」青春白樺美術館、山梨など。主なアーティストインレジデンスとして、スペイン、ブルガリアなど。



滝本優美 / Yumi Takimoto

1992年東京都生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。「絵の具を描く」アーティスト。ペンティンングナイフを握り、クリームを塗る行為のように絵の具をのせていく。かたちや色から想起され、何かに見えるがただそこには絵の具という物質が存在している。2024年6月 Gallery Q にて個展開催予定。2023年清澄白河アートプロジェクト（戸田建設賞受賞・チャーム清澄白河収蔵）個展「#絵の具を描く」(HIDE)GALLERY TOKYO。



西村祐馬 / Yuma Nishimura

1995年生まれ。2018年日本大学芸術学部デザイン学科卒業。個人の存在を未来まで遺すことをコンセプトに制作を続ける。ケビン・ケリーやレイ・カーツワイルなどの未来学者に影響を受け、人類の進歩とテクノロジーの進化が及ぼすメリットとデメリットを漠然とした未来像から写真を通して日常の光景へと現像する。外身と中身の構造を考察することで、人類がクローンやAIなどによって精神と肉体の関係から解放された次の人類の在り方を観るものに訴える。これまでに「Art Fair Beppu 2023」、「KG+SELECT 2023」ファイナリスト、「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2022」審査員個人賞など、勢力的に作品の発表を続ける。



松田匡代 / Masayo Matsuda

愛知県生まれ。Royal College of Arts（イギリス）、MA Fine Art Photography 修士を卒業。2013年12月より日本に拠点を移す。フォトグラフィーの歴史における Photography の語源が、ギリシャ語で「光によって描く」ということに着想を得て、光・影・痕跡を残すものの存在・視界と視覚などの間を行き来しながら、記憶・トラウマ・人と人（もしくは物・視覚など）との関係性などを表現する作品の制作を続けている。受賞歴に、2017年に Japan Photo Award 2017を受賞など。



松本千明 / Chiaki Matsumoto

岡山県笠岡市生まれ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科を卒業後、広告制作会社、デザイン事務所などで働きながら大理石をモチーフとした絵画制作を行っており、2021年から作品発表を始める。主な受賞歴に KAICA TOKYO AWARD 2022 入選。主な展覧会に2021年「MARBLE is」（大倉精神文化研究所）、2023年『Transformation』（株式会社白水社）がある。



南靖子 / Yasuko Minami

2011年東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース卒業。日本画を現代的な新しい解釈のもとに再構築した作品を制作。日本画において伝統的に余白として表現されてきた箔を、図の部分に用いることにより、図と地の関係が反転した、今までにない新しい絵画表現を模索している。2019年「ART OSAKA」、「ART FAIR ASIA FUKUOKA」、「3331 ART FAIR 2020」などアートフェア出品。2020年「TUAD ART-LINKS 2020」など、グループ展、個展多数。



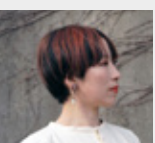
ヨフ / YOF

大原崇嘉、古澤龍、柳川智之の3人により2015年に結成。視覚メディアにおける色彩・空間などのブラグマティックなリサーチから、視覚表現の現在性を捉え直す実践を行う。主な受賞歴に、「第24回文化庁メディア芸術祭」アート部門 審査委員会推薦作品、文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業採択（2022）など。主な展覧会に、OPEN SITE 2019-2020「2D Painting」トーキョーアーツアンドスペース 本郷（2019、東京）、「流れる窓、追い越す目」art space kimura ASK?（2023、東京）、「メニスル」トーキョーアーツアンドスペース 本郷（2024、東京）など。



Yoko Ichikawa

群馬県前橋市生まれ。桑沢デザイン研究所基礎造形専攻修了、国際基督教大学美術史・歴史学専攻卒業、一橋大学大学院言語社会学科美術史専攻修了。学生時代から独学でイラストレーションやグラフィックデザインを学ぶ。2018年に渡英。一度、創作から遠ざかったものの、留学先で被災地とアートフェスティバルの関係について研究したことをきっかけに、個人の記憶や経験によるアイデンティティ形成に興味関心を持ち、アート作品を通じた記憶の具現化を試みる。人種を問わない普遍的なテーマを媒介者として他者に投げかけ、多様な文化の個人の記憶や内在する価値観を引き出し、枠組みに囚われない幅広い表現で再現する。



「START Box とは」

本事業は、アトリエ等を確保することが難しい若手アーティストに創作場所を提供し、継続的な活動を支援する、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の事業です。2023年4月には、渋谷区笹塚・幡ヶ谷にある都営住宅の空き店舗を活用した創作スペース「START Box ササハタハツ」、2023年11月には、お台場の東京都住宅供給公社の空き店舗を活用した創作スペース「START Box お台場」をオープンし、これまで23名が利用しています。また、オープンアトリエ等による地域やアーティスト同士での交流や、文化イベントによる作品発表の場の提供などを通じて、アーティストの活動支援を行っています。



START Box × YAU 関連イベント

参加アーティストによるギャラリートークを行います。

▼2024年3月22日（金）18:00～20:00

▼2024年3月26日（火）18:00～20:00

※事前予約不要

お問合せ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部
tel: 03-6256-8853（平日:10:00～18:00）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
協力：有楽町アートアーバニズム YAU

「YAU とは」

NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所株式会社により組成された「有楽町アートアーバニズム実行委員会」が2022年2月に立ち上げた、まちがアートとともにイノベティブな原動力を生み出すためのパイロットプログラムです。アーティストの稽古場や制作場所、公募で集まったアート関係者のためのコワーキングスペース、トークイベント「YAU SALON」を実施するなど、アート&ビジネスの核となるコミュニティ形成に取り組んできました。また、一部のプログラムを東京都と連携し行っており、アート業界における中間人材の育成に力を入れています。2024年3月には国際ビル1階にオルタナティブスペース YAU CENTER をオープン。今後も街との接点を多く持つことで「アートアーバニズム」を継続・実践し、大丸有におけるアートとビジネスをつなぐ持続的な活動体となることを目指しています。



アクセス

JR 京浜東北線・山手線「有楽町駅」国際フォーラム口より徒歩2分
東京メトロ有楽町線「有楽町駅」（D1）、日比谷線、千代田線「日比谷駅」（A6）直結
都営地下鉄三田線「日比谷駅」直結（B3・B4出口）
住所：100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル1階



東京都

ARTS COUNCIL TOKYO



YAU